



225 人による幼稚園号の新たな船出

玄関前の赤や黄色の花が咲き乱れる 8 日に、始園式を迎え、2 週間振りに元気な子どもたちに出会うことができました。年中さんの中には、休み中、家族の方と存分に過ごしたせいか、お母さんに甘え、離れ難くて涙する子どももいました。

13 日には、73 人の年少さんと 1 人の年中さんの新しい友達を迎え、入園式を行いました。たんぽぽで一緒に過ごしたことがある子どもたちでしたから、和やかな雰囲気の中で進行することができました。まず、年長担任の白土、高原両教員によるパネルシアターです。2 年目とはいえ慣れた指導で、親子で身振り手振りの手遊びを楽しみ、一気に緊張がほぐれたようです。園長の話では、つい滑舌になり、昨年度の年少の活動の紹介が少し長くなりました。職員から、「少し長かったですよ」と指摘を受け、反省した次第です。

今年度は、都合 67 名の年中、85 名の年長さんを加えて、総勢 225 名で船出をします。



年中の新クラス名「すもも」「びわ」

新園舎の定数の関係で、年中クラスを 2 学級に減らさざるを得なくなった関係で、これまで慣れ親しんできた年中の学級名をやむなく変更することになりました。卒園児の皆様には大変申し訳ありませんが、進級した年長さんが、「私のクラスだけ無くなった」という悲しい思いをさせたくなかったために、名称を変更しました。

職員で慎重に協議した結果、幼稚園に以前からあって、年中の子どもたちが慣れ親しんでいるものとして、昆虫や植物を考えました。ダンゴ虫やカタツムリ、(サツマ) イモなどの名前が挙がりましたが、名前が長いし、呼びにくいということで候補から外されました。そして、年中になったら経験するジュース作り、その素になる果物ということで「すもも」「びわ」に決定しました。いい名前です。早く慣れ親しんでいただきたいと思います。

幼稚園名が変わりました

昭和 44 年に誕生した筑紫女学園短期大学(後に筑紫女学園大学短期大学部)が、幾多の幼稚園教諭や保育士を世に送り出し、今でも、多くの方が現役で活躍されています。しかし、この 3 月に短期大学部の最後の卒業生を全員送り出し、学部そのものが 4 年制大学へ移行し、46 年の歴史に幕を閉じることになりました。これに伴いまして、本幼稚園も筑紫女学園大学短期大学部附属幼稚園から**筑紫女学園大学附属幼稚園**と名称を変更しました。

これは、単に名前が変わったという問題ではありません。これまでは、短期大学部附属ということから幼児教育科の学生を教育実習生として受け入れていました。これまでも、4 年制大学に初等教育コース&幼児教育コースの誕生によって、大学及び短期大学部の先生方と連絡会議を定期的に関き、双方の学部の教育実習生を引き受け、大学と幼稚園の双方で実習生の指導を行ってきたところです。大学の附属となったことで、大学から色々な面で支援をしていただくことが可能となりました。宗教教育部や特別支援教育の専門の先生方をはじめ、体育的な面、図画工作的な面など、いろいろな教科の専門の先生方の指導を仰ぎながら保育指導を進め易くなりました。大学の附属のよさを生かし、連携の幅を広げたり深めたりして、子どもたちのより良い成長につなげていきたいと思っています。

バス停でのマナーを守りましょう

先日、本園バスコースの地域住民の方から、バス停での保護者の皆さんや子どもたちのマナーについて厳しいご意見をいただきました。数か月前、同様にマナーの面を指摘され、バス停を変更したコースがありました。この問題は、その方が住んでおられる地域だけではなく、バス利用者全員の方に該当しますので、改めまして、バス停でのマナーや歩きの方でも登降園時のマナーについて考えていただければ幸いです。

○子どもたちが、大きな声で話したり、走り回ったりしないように、子どもさんをしっかり見届けてください。マンション前での会話も、そこに住んでおられる方にとっては騒音となります。また、走り回ると、車椅子利用や歩行者の方に迷惑をかけることとなります。歩道でも自転車が通りますので危険がいっぱいです。

○そのためには、保護者の皆様は、子どもたちの手をしっかり握ってください。気心が知れた保護者の方同士だと話も弾んで楽しいと思います。しかし、子どもの安全安心を第一に考えてください。